雑録

幽霊和名「トツグミノリ」の謎

仲田 崇志

幽霊語とは，辞書にあって現実には使用例のない言葉だが（見坊・稲川 2021），藻類の和名にも「幽霊和名」が見つかった。

大型本節用集の一種，『江戸大節用海内蔵』（文久 3／1863）には「とつぐみのり／撮苔」という和名が載っている。藻類のような和名だが，現行の藻類名にも他の大型本節用集にも見当たらない。これは『合類節用集』（延宝 8／1680）に「トヅクミノリ／撮苔」とあるのを誤写したもののようだ。

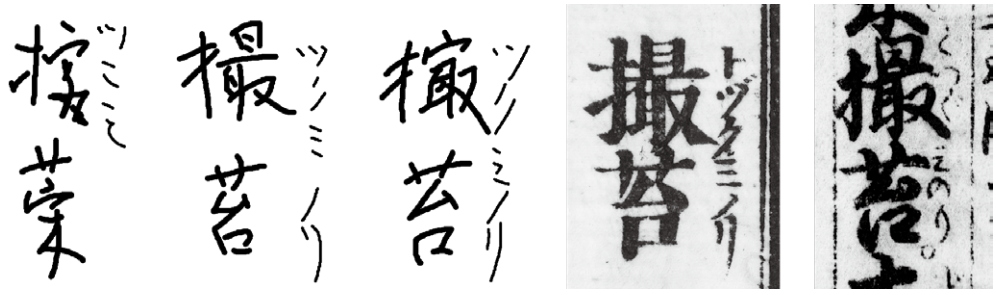
「トヅクミノリ」もまた,『桂本佚名古辞書』（文亀 2／1502）*1 や経亮本『節用集』（16 世紀後半か*2）に見られる「ツクミノリ／撮苔」の誤写だろう（直前の語末を誤って繋げたか）。しかし「撮」は「ツマム」と読んだはずで,「ツクミノリ」も「ツマミノリ」の誤りと思われる*3。

ではツマミノリとは何か。『日葡辞書補遺』（1604 刊）には間引きで摘んだ菜「Tçumamina」（ツマミナ）が載る。漢字では「撮菜」と書かれたはずだ［『西鶴大矢数』（延宝 9／1681 刊）に用例］。「菜」は「ノリ」とも読まれ，「苔」と混同されることがあったため（例えば『塵芥』では「トツサカノリ／鶏冠菜」に「一一苔」を併記），「撮菜」がツマミノリと読まれ「撮苔」に変化したのではなかろうか。トツグミノリは，本来の意味を失った幽霊和名と言えそうだ。

*1 以下, 古典籍は影印・索引を参照。経亮本『節用集』:京都大学文学部国語学国文学研究室（1974),『桂本佚名古辞書』:勉誠社（1979）（索引は高橋・前嶋 1996),『温故知新書』: 中田・根上（1971），饅頭屋本『節用集』: 中田（1968),『日葡辞書補遺』: 岩波（1960）（翻訳は土井ら 1980),『西鶴大矢数』: 近世文学書誌研究会（1975),『塵芥』: 京都大学文学部国語学国文学研究室（1972）（索引は橋本 1988)。

*2 上田・橋本（1916，pp. 51–52）によると,「永禄八年よりは後」の「遠くない時代」の書写。

*3『温故知新書』（文明 16／1484）や『塵芥』（天文／ 1532–1555 頃), 饅頭屋本『節用集』（室町末）に「ツマム／撮」とあり, 高橋・前嶋（1996）も「ツクミノリ」を「ツマミノリ」に訂正している。



撮苔・撮菜の掲載例．右から『江戸大節用海内蔵』（架蔵本;文久 3)・『合類節用集』（架蔵本;延宝 8）（以上複写．以下引用より筆写）・『節用集』経亮本（京都大学文学部国語学国文学研究室 1974）・『桂本佚名古辞書』（勉誠社 1979）・『西鶴大矢数』（近世文学書誌研究会 1975）.

引用文献

勉誠社（発行）1979．桂本佚名古辞書．勉誠社，東京.
土井忠生・森田武・長南実 1980．邦訳 日葡辞書．岩波書店，東京.
橋本四郎 1988．塵芥索引．臨川書店，京都.
岩波書店（発行）1960．日葡辞書．岩波書店，東京.
見坊行徳・稲川智樹 2021．辞典語辞典，修訂版．誠文堂新光社，東京.
近世文学書誌研究会 1975．西鶴大矢数．勉誠社，東京.
京都大学文学部国語学国文学研究室（編）1972．清原宣賢自筆 伊路波分類体辞書 塵芥．臨川書店，京都.
京都大学文学部国語学国文学研究室（編）1974．経亮本 節用集．臨川書店，京都.
中田祝夫 1968．古本節用集六種研究並びに総合索引．風間書房，東京.
中田祝夫・根上剛士 1971．中世古辞書四種研究並びに総合索引，影印篇・索引篇．風間書房，東京.
高橋久子・前嶋深雪 1996．桂本佚名古辞書単語索引．日本語と辞書 1: 65–157.
上田万年・橋本進吉 1916．古本節用集の研究．東京帝国大学文科大学紀要 2: 1–384.